

# 検査Ⅰ

時間 四十五分

## 受検上の注意

1. 解答用紙に、受検番号・氏名を記入してください。
2. 声を出して読むはいけません。
3. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。  
方法を誤ると得点になりません。
4. 検査終了後、解答用紙を回収します。

問題は次のページからです。

1 次の「文章1」と「文章2」とを読み、あとの問題に

答えなさい。(＊印の付いている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

文章1

筆者がサラリーマンをしていたころ、「そんなことをしている暇があったら、草取りでもしている」と怒られたことがある。

もちろん、それは皮肉だったろうが、日本では草取りが大切な作業である。「ヨーロッパには雑草はない」と言った＊和辻哲郎は、「日本の農業労働の中核をなすものは『草取り』である」と指摘している。

日本の農業において、草取りは多大な時間を費やす作業である。今でも農家のみなさんは、時間さえあれば草取りをしたり、＊畔の草刈りをしたりする。

田んぼばかりか家の周囲や庭を草のない状態に保つていくことが美徳であり、雑草が生えた状態になっていると、まるで怠け者であるかのように思われてしまう。

ハルジオンという雑草は、別名で「貧乏草」と呼ばれている。この雑草は放っておくとすぐに生えてくる。そしてハルジオンが生えた様子が落ちぶれた家のように見えることから、貧乏草と名付けられているのである。

また、「ぺんぺん草が生える」という表現もある。ぺんぺん草はナズナという雑草の別名だ。荒れ果てた土地にはぺんぺん草が生える。その様子を表現しているのである。働き者の家には雑草がない。一方、手を抜けばとたんに雑草が生えて、その様子は落ちぶれていたり、貧乏であると思われてしまう。だからこそ日本では、隣近所の目を気にしながら、競い合って草取りや草刈りに励まなければならないのである。

＊冥土の賽の河原では、亡くなった子どもたちが父母の供養のために泣きながら石を積み上げて塔を作ろうとするが、絶えず鬼に塔を崩されてしまう。それでも子どもたちは泣きながら、何度も何度も石を積み上げていくのである。

日本では、雑草は抜いても抜いても生えてくる。それがわかっていても、雑草を抜き続けなければならぬ。

日本の草取りは、まさに賽の河原の子どもたちの苦行のように、つらく、悲しい。

それにしても、日本人の草取りに対する執念(しゅうねん)は＊狂信的(きやうしんてき)である。雑草がない状態にするのがこんなに難しい環境にあるのに、草がない状態を美徳としているのである。

日本では「小僧泣かせ」と呼ばれる雑草がある。ツメクサやカタバミ、コニシキソウなどは、小さな雑草

で草むしりが大変である。抜いても抜いても、抜ききることができない。つらい草むしりで小僧さんがいつも泣かされていたことから、「小僧泣かせ」と呼ばれているのである。

さらには、「小僧殺し」と呼ばれる雑草もある。ジシバリと呼ばれる雑草はタンポポによく似た花を咲かせる雑草だが、繁殖力が\*旺盛で、とても抜ききることはできない。そして、ついには過酷な草むしりのために小僧さんを殺してしまうというのである。

何という恐ろしい雑草だろう。

しかし、小僧泣かせや小僧殺しと呼ばれているのは、とても小さくかわいらしい雑草である。この小さな雑草をきれいに抜こうと思えば、確かに大変だが、たとえ抜かなくても何の支障もないようなものである。

アそんな小さな雑草もきれいに抜かなければならないほど、日本人は草取りをするのに重きを置いていたのである。

(稲垣栄洋「雑草と日本人」による)

〔注〕

\* 和辻哲郎 …… 日本の哲学者、思想家。

\* 畔 …… 田と田の間に土を盛り上げたしきり。

\* 冥土の賽の河原

…… 仏教用語。死後の世界にある河原。

\* 狂信的 …… ひたすら信じ込むさま。

\* 旺盛 …… 意欲が盛んな様子。

## 文章2

おかげさまで、アンパンマンは幼稚園から小学校低学年の子どもにかけて人気があります。アンパンマンの生みの親としては、片方ではうれしい半面、こんな世の中に\*氾濫（はんらん）していいのだろうか、と不安な感じもしています。ボクの希望としては、一人歩きしていくのはいいとしても、トップにならずに、四位か五位をキープして、永く続いていてほしいのです。のぼりつめれば、必ず、次は落ちますから。ボク自身も子どもの頃から絵が好きで、小学校、中学校（\*旧制）と好きでかいていましたが、決してトップではなかった。三番目か四番目にうまかった。アンパンマンもボクとしては地味な感じでいきたいのですが、最近はどうも派手っぽくなってきて、心配しています。

それと、絵のほうはともかく、主題歌の歌詞に対して若い人からも反響（はんきやう）があって、悲しい時に勇気づけられる、という高校生の投書（とうしょ）が新聞にのりました。子どもに受けよとか、子どもに\*迎合（げいごう）せずに、自分の思いを大人の感覚でそのまま歌詞にしています。「なんのために生まれてなにをして生きるのか」というわりあいと重い問いかけになっっていて、幼児アニメのテーマソングとしては珍しいかもしれません。

ボクはいままでにもアンパンマンの歌以外に子どもの歌

をたくさんかいています。代表的なものは「手のひらを太陽に」でしょうか。小学校一年生なら一年生なりに思想があるものです。それを無視したような歌は好きになれません。その気持ちはいまも同じで、だから「手のひら……」もアンパンマンの主題歌も、自分の思いをそのまま歌詞にしたままでのことで、それが受け入れられている、ということとはともうれいすね。作者のいわんとしていることが歌う子どもたちにわかる歌でない。もしアンパンマンの主題歌をだれか他の作詞家に依頼（いらい）したら「かわいい、かわいい、アンパンマン」式（しき）のものができたでしょう。

とはいっても、漫画（まんが）のキャラクターとしてのアンパンが活躍（かつやく）するのは、いわば、アンパンマン・メルヘン・ワールドでのお話なのです。アンパンマンのお話の中のパン屋さんは森の中（ま）にあります。現実的に考えると、森の中ではパンは売れません。売ろうと思ったら、もつとにぎやかな都会（かい）とか、駅前（えきまえ）の繁華街（はんかがい）になってしまいます。

つまり、現実社会（げんじつしゃかい）にない架空（かくう）の世界だということです。だからアンパンマンはメルヘン・ワールドの中のパンの妖精（ようせい）みたいなものです。

ボクの作品には、メルヘン風なものが共通して漂（ただよ）っているとよくいわれます。やはりそれは、子どもの時の影響（えいぎやう）でしょう。父（ちち）が死（し）んでからは医者（いしや）であるおじの家（いへ）で育（そだ）ちまし

た。絵が好きでよくかいていました。当時は力強い絵、荒  
いタッチの絵、強い色彩のものが受けていたのですが、ボ  
クがかくのは、おとなしい絵でした。本も子どもとしては  
かなり読んでいました。そうしたことの影響えいきょうなのでしょ  
う。アンパンマンの映画が封切ふうけつされた時、それを注意深く  
見た人の中にはきっと、これは\*メーテルリンクの「青い  
鳥」を下敷じきにしている、と気づいた人がいたと思います。  
「青い鳥」にはいろんな妖精が出てきます。パンの精も出  
てきます。

ボク自身は意識して「青い鳥」を下敷きにして作ったわ  
けではありませんが、やはり、自然に、そうなるんですね。  
子どもの頃に得たものの影響は大きいですよ。子どもの時  
に心に染しみ込こんだものは、大人になって出てきます。たと  
えばボクらは、子どもの頃、天皇は神であり、尊とうといもの  
だと教えられたから、昭和天皇はボクらと同じ人間だと戦  
後教え直されても、おそれ多い気持ちはずっとありました。  
それくらい子どもの頃の生活は大事だし、まわりの大人の  
責任も大きいのです。ボクたち子ども向けに作品をかいて  
いる者の責任も重大です。

ボクは教育者ではありませんが、それを読む子どもたち  
の心に影響を与えていくとすれば自分の作品群に対しては  
責任があります。

ボク自身、子どもの時に読んだ本にずいぶん助けられて  
います。

そして、どうもその頃からボクはほとんど進歩していな  
いみたいです。

基本的な精神のデッサンは三歳から五歳ぐらいまでに完  
成しているように思います。

いわゆる「三つ子の魂たましい百まで」ですね。

(やなせたかし「ボクと、正義と、アンパンマン」による)

#### 〔注〕

\* 氾濫 …… あたりいっぱいに広まること。

\* 旧制 …… 明治から昭和前期の教育制度。

\* 迎合 …… 他人に気に入られようとすること。

\* メーテルリンク …… ベルギーの詩人、劇作家。

〔問題 1〕

アそんな小さな雑草もきれいに抜かなければならないほど、日本人は草取りをすることに重きを置いていたとありますが、その理由を指し示す内容を「ーから」に続くよう、十五字以内で**文章1**から抜き出しなさい。

〔問題 2〕

日本人の草取りに対する執念は狂信的である  
とありますが、日本人の草取りに対する意識が  
変わらない理由について、**文章2**の筆者の考え  
をふまえて六十字以内で答えなさい。

〔問題 3〕

あなたは、これからの学校生活でどのように  
学んでいこうと思いますか。あなたの考えを四  
百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、  
次の条件と下の「きまり」にしたがうこと。

条件

- ① あなたが、**文章1**・**文章2**から読み取った考え方をふまえて、「学校」とはどのような場所であるかをまとめること。
- ② 「①」の内容と、自分はどうのように学んでいくつもりかを関連させて書くこと。
- ③ 適切に段落分けをして書くこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 、や。や「 などそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます（ますめの下に書いてもかまいません）。
- 。と「 が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「。」で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。

このページ以降には問題はありません。

